

京都工芸繊維大学らと共同研究 北海道産行者ニンニクに抗酸化活性を確認

浜理PFST

浜理PFST(株)千歳工場(北海道千歳市)は、京都工芸繊維大学らとの共同研究で、北海道産行者ニンニクに高い抗酸化活性(スーパーオキシドラジカル)があることを確認した。研究班は、行者ニンニク由来の抽出液(水溶性成分)に着目。栽培条件の異なる行者ニンニクをHPLC-ESR法で評価した結果、非常に高い抗酸化活性を示す行者ニンニクを見出した。抗酸化活性の比活性は低分子量成分67%、高分子量成分33%で、研究班は「低分子量成分に高い抗酸化活性を有する未知のポリフェノール類が含まれている可能性が示唆された」としている。研究成果は、8月26日開幕の「日本食品科学工学会」で発表する。



浜理PFST(株)千歳工場では、原薬のほか、野菜や果物の濃縮液の製造を手掛けていく。引き続き、共同研究を進めていくとともに、北海道産の行者ニンニクから抽出したエキスの製品開発を本格化する。また、今年導入するスプレードライヤーでの受託製造や粉末品の商品開発を視野に入れるほか、「ペースト品の商品開発にも着手していきたい」としている。

なお、今年7月に浜理PFST(株)(大阪府住之江区)がチトセ浜理薬品(株)(北海道千歳市)および米沢浜理薬品工業(株)(山形県米沢市)を吸収合併したことを発表。チトセ浜理薬品(株)は、浜理PFST(株)千歳工場として業務を行っていく。